

翻訳にあたってのヒント

その 44

色にちなんだいろいろな英語

第 1 回

今回からは、ちょっと趣向を変えて、色にちなんだ英語を数回に分けてお届けすることにする。信じられないことに、人間が見分けることができる色は、約 1,000 万種と推計されるという。さらに、灰色の濃淡具合にいたっては、100 段階ぐらいの明暗の違いを人間は感じとることができるというから驚きだ。よって、これほどまでにおびたらしい種類がある色を文字で表現したり書物に集録したりすることはほぼ不可能に近いので、目に映る色のほうがことばで語られる色よりもはるかに多彩であるといえよう。

そんな訳で、色にまつわる表現が実に多いことを鑑み、いろいろな英語表現を書いてみることにした。第一回目は赤。

● Red

「赤」は血や火の色。そこで英語の red からは、「感情的興奮」「(血のたぎるような)情熱、怒り」「革命」「危険」「目立ちやすさ」などのイメージが連想され、次のようなさまざまな用法がある。

red-blooded : 「元気のあること」

red hot : 直接的には「金属の赤熱したさま」を意味するが「興奮」の意もある。

see red : 「激怒する」

paint the town red : 「バカ騒ぎ」「大いに飲み歩く、痛飲する、豪勢にやる、パーッといく」

red-faced : 文字どおり「顔が赤くなったさま」(ただし、この表現には「怒り」による場合と「恥ずかしさ」による場合とがある。)

red rag to a bull : 「牛を怒らせる赤い布、人を怒らせるもの」(しかし、これは色彩学的には理屈に合わない。なぜならば、牛には色覚がないからだそうだ。ゆえに、牛は赤を見ても格別興奮はしないはずで、赤色に興奮しているわけではなく、目の前でひらひらと振り回される布にイライラしているのであろう。)

red ink、in the red : 「赤字」を示す。(いずれも印刷など表示方法における色に由来する。会計では、支出が収入より多い場合、損失分を帳簿に赤インクで記入する。)

Red : 「共産主義」の意がある。ロシア語の краснѣй (クラスヌイ) は、「赤」と同時に「美しい」も意味するようで、ロシア人からすれば、「赤旗」すなわち「美しい旗」でもあるのだらう。

赤系色の英語表現：

- red-blooded 「勇ましい、男らしい」「精力旺盛な、元気な」「手に汗握るような」
- see red 「怒りがこみあげる、かーっとなる」「激怒する」
- a red flag goes up 「注意が促される、警戒が必要となる」
- red-handed 「現行犯の」「現行犯で」
- red lattice 「酒場」(日本語の赤ちょうちんに似てなくもない)
- be in the red 「赤字である」
- red-eye 「夜行便」
- red-letter day 「記念すべき日・めでたい日」(かつては祝祭日を指した)
- red herring 「人の注意をそらすもの、人を惑わす情報、ガセネタ」
- red tape 「官僚的形式主義、お役所流、お役所仕事」
- red cent 「びた一文、はした金(名詞)」「びた一文も、少しも、ちっとも(副詞句で)」
- A large number of stores operate in the red. 店の多くは赤字経営である。
- We rolled out the red carpet for the President of the U.S. when he arrived in Japan.
我々は来日したアメリカ大統領を歓迎した。
- Bob saw red when some of this classmates teased him about his weight. 何人かのクラスメートが体重のことでからかったとき、ボブは怒った。
- Our new teacher kept making errors and went red in the face. 私たちの新任の先生は何度も間違いをし、当惑(赤面)していた。

● 豆知識

カラー印刷の三原色(Cyan [シアン、青緑色]、Magenta [マゼンタ、赤紫色]、Yellow [イエロー、黄色])の一つである、このうちの magenta は、染料が採れる北イタリアの地名に由来するそうである。また、Carmine、scarlet、vermilion は、わずかに黄みによった赤、つまり「朱」に当たると言われている。

これにて、第 44 回目終わり。